

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果と今後の指導について

小豆島町教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象（悉皆調査）

- ① 小学校調査 小学校第6学年
- ② 中学校調査 中学校第3学年

(3) 調査事項

- ① 教科に関する調査〔国語、算数・数学〕

【出題内容】

- ア 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- イ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

【調査問題】

- ・上記アとイを一体的に問う。
- ・記述式の問題を一定割合で導入する。

- ② 質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査	学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査

(4) 調査実施日 令和3年5月27日（木）

(5) 調査を実施した児童生徒数

- ① 小学校調査 4校 96人
- ② 中学校調査 1校 80人

(6) 結果の公表と活用についての方針

- ① 小豆島町教育委員会では、調査結果を分析し、本町の児童生徒の全般的な学習状況の改善等につなげていく。調査により測定できるのは、学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることを踏まえ、序列化や過度な競争が生じないよう数値による結果の公表は行わず、全体的な傾向を文章でまとめ、公表する。
- ③ 小豆島町教育委員会は、分析結果を今後の教育施策・事業等に反映していく。

2 小豆島町の児童生徒の調査結果の概況

- ※ 全国（公立）の平均正答率との差が1ポイント以上の場合・・・「上回った」「下回った」
- ※ 全国（公立）の平均正答率との差が1ポイント未満の場合・・・「ほぼ同じ」
- ※ 全国（公立）の平均正答率と同じ場合・・・・・・「同じ」

(1) 教科に関する調査の全体的な状況

① 小学校

- 国語・・・・・・全国（公立）の平均正答率を上回った。
- 算数・・・・・・全国（公立）の平均正答率を上回った。

② 中学校

- 国語・・・・・・全国（公立）の平均正答率とほぼ同じ。
- 数学・・・・・・全国（公立）の平均正答率を下回った。

（２）学力・学習状況の傾向と今後の指導で大切にしたいこと

① 小学校

ア 国語（１４問）

出題問題について

学習指導要領の領域等 と結果	出題の趣旨
話すこと・聞くこと 全国（公立）を上回った	■ 目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える。 ☐ 資料を用いた目的を理解する。 ☐ 目的や意図に応じ、資料を使って話す。
書くこと 全国（公立）をほぼ同じ	■ 自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える。 ☐ 目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。
読むこと 全国（公立）を下回った	☐ 文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事項を把握する。 ■ 目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける。 ■ 目的を意識して、中心となる話や文を見付けて要約する。
言葉の特徴や使い方に関する事項 全国（公立）を上回った	☐ 思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う。 ☐ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。 ☐ 文の中における主語と述語との関係を捉える。 ☐ 文の中における修飾と被修飾との関係を捉える。

※ 表中の□印は良好な内容を、■は課題と考えられる内容を示しています。

今後の指導で大切にしたいこと

学習指導要領の領域等	授業改善の視点
話すこと・聞くこと	・自分の考えや伝えたい内容を相手に分かりやすく伝えるために、具体的な相手や目的を意識して、話の中心を明らかにすることが重要である。その際、事実と感想、意見とを区別したり、詳しい説明を付け加えたりするなどの構成を工夫することができるようにする。
書くこと	・自分の主張を明確に伝えるために、まず、自分が主張したいこと、それを支える理由や事例を明確にする。その上で、理由や事例を文章全体の中でどのように配置すれば効果的に伝わるかを考えることができるようにする。
読むこと	・文章を読む際に、文章中に用いられている図表などが、文章のどの部分と結びつくのかを明らかにした上で、文章と図表などの関係を捉えて読むことができるようにする。 ・目的に応じて文章全体から中心となる語や文を選び、内容を端的に要約できるようにする。
言葉の特徴や使い方に関する事項	・思考に関わる語句（～は～より、しかし、要するに、～だろう等）の使われ方に気を付けて読むと、筆者が伝えたいことをより正確に捉えられることを、児童が実感できるようにする。

イ 算数（１６問）

出題問題について

学習指導要領の領域等 と結果	出題の趣旨
数と計算 全国（公立）を上回った	☐ 二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる（C「測定」の領域も含む）。 ☐ 示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができる。 ☐ 商が1より小さくなる等分除（整数）÷（整数）の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算することができる。 ☐ 小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる。
図形 全国（公立）を上回った	☐ 三角形の面積の求め方について理解している。 ☐ 複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる。
測定 全国（公立）を上回った	☐ 条件に合う時刻を求めることができる。 ☒ 複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法的性を基に捉え、比べることができる（「B 図形」の領域も含む）。
変化と関係 全国（公立）を上回った	☐ 速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができる。 ☒ 速さを求める除法の式と商の意味を理解している。 ☐ 速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができる。
データの活用 全国（公立）と同じ	☐ 棒グラフから、数量を読み取ることができる。 ☐ 棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる。 ☒ データを二次元の表に分類整理することができる。 ☐ 帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる。 ☐ 集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきか判断することができる。

今後の指導で大切にしたいこと

学習指導要領の領域等	授業改善の視点
数と計算	倍について小数でも整数でも、基準量を1としたときに比較量が幾つに当たるかという意味で捉えることができるようにする。第2学年からの倍の学習では図などを用いて基にする大きさを意識できるようにする。
図形	複数の図形を組み合わせた図形について、面積を求めるために必要な辺の長さや高さを、組み合わせた図形の辺の長さや高さから求めるなど、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えることができるようにする。
測定	ある図形を分割して並び替えても面積が変わらないという量の保存性や、二つの図形を組み合わせた図形の面積はそれぞれの面積の和になるという量の加法的性といった基本的な性質を理解し、活用できるようにする。
変化と関係	どちらが速いかを比べる際には、単位量を道のり又は時間で比べる場合があり、どちらを単位量として設置しているかについて考え、速さを求める除法の式と商の意味を理解できるようにする。

データの活用	・二次元の表は、異なる項目間での関係について考察できるよさがある。目的に応じて集めたデータを二つの観点から分類整理できるように、データを二次元の表に分類する活動や、作成した二次元の表を読み取る活動を取り入れる。 ・複数のデータについて、項目の割合を比較するために、帯グラフからそれぞれの割合を読み取ることができるようにする。また、各項目の特徴や傾向を読み取ることができるようにする。
--------	--

① 中学校
ア 国語（１４問）

出題問題について

学習指導要領の領域等 と結果	出題の趣旨
話すこと・聞くこと 全国（公立）を上回った	☐ 話合いの話題や方向を捉える。 ☒ 質問の意図を捉える。 ☐ 話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える。
書くこと 全国（公立）を下回った	☐ 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く。 ☒ 書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える。 ☒ 伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く。
読むこと 全国（公立）を下回った	☒ 文脈の中における語句の意味を理解する。 ☒ 場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する。 ☐ 登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する。 ☒ 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ。
伝統的な言語文化と国語 の特質に関する事項 全国（公立）を上回った	☒ 文脈に即して漢字を正しく読む。 ☐ 事象や行為などを表す多様な語句について理解する。 ☐ 相手や場に応じて敬語を適切に使う。

今後の指導で大切にしたいこと

学習指導要領の領域等	授業改善の視点
話すこと・聞くこと	・話し手に質問する際には、話し手が伝えたいことを確かめたり、足りない情報を聞き出したりするなど、知りたい情報に合わせて効果的に質問できるようにする。
書くこと	・書いた文章を読み合うときには、読み手は、書き手の目的と意図を理解した上で、単なる印象ではなく、具体的な部分や事柄を取り上げて助言できるようにする。また、書き手は読み手からの助言などを踏まえて、自分が書いた文章のよい点や改善点を見いだせるようにする。 ・読み手に分かりやすく伝わるように書くために、目的や意図に応じて説明や具体例を加えたり、表現しようとする内容に最もふさわしい語句を選んで描写を工夫したりできるようにする。
読むこと	・文学的な文章を読むためには、言葉を手がかりにしながら文脈をたどり、観点を定めて読むことにより深い理解や感動が得られる。語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈における意味を具体的かつ個別的に捉えその語句が文章の中で果たしている役割を考えることもできるようにする。 ・場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉える。必要に応じて語注なども参考にして、登場人物の言動などを整理しながら内容を捉えるようにする。

伝統的な言語文化と国語 の特質に関する事項	・事象や行為などを表す多様な語句については、生活の中の様々な場面や状況に応じて、適切に使うことができるようにする。辞書を活用して似た意味を持つ語句を調べたり、複数の語句を比べてどれが最もふさわしい表現かを検討したりすることも効果的である。
--------------------------	---

イ 数学（１６問）

出題問題について

学習指導要領の領域等 と結果	出題の趣旨
数と式 全国（公立）を下回った	■整式の加法と減法の計算ができる。 □具体的な場面で、一元一次方程式をつくることができる。 ■問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。 ■目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる。 □数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる。
図形 全国（公立）をほぼ同じ	■扇形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解している。 □平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明することができる。 □錯覚が等しくなるための、２直線の位置関係を理解している。 ■ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見いだし、それを数学的に表現することができる。
関数 全国（公立）を上回った	□関数の意味を理解している。 ■与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる。 □事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。
資料の活用 全国（公立）をほぼ同じ	□与えられたデータから中央値を求めることができる。 ■ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることができる。 ■相対度数の必要性和意味を理解している。 □データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。

今後の指導で大切にしたいこと

学習指導要領の領域等	授業改善の視点
数と式	・予想した事柄が別の場合でも成り立つかどうかを確かめ、考察の対象を明確に捉えることができるようにする。 ・事柄が一般的に成り立つ理由を、構想を立てて説明する場面を設定し、文字式や言葉を用いて根拠を明らかにできるようにする。説明を洗練させていく活動を取り入れる。
図形	・円や扇形の学習を進める際に、半径が等しい円と扇形を比較する機会を設定し、扇形を円の一部としてとらえることができるようにする。 ・条件を保ったまま動かした図形を観察し、辺や角について変わらない性質を見いだす活動を取り入れ、ある条件の下でいつでも成り立つ性質や関係を捉え、それを数学的に表現することができるようにする。
関数	・実生活の場面において、事象を理想化・単純化してその特徴を的確に捉え事象を数学的に解釈することができるようにする。

資料の活用	・大きさの異なる二つ以上の集団のデータについて、その傾向を比較するために、相対度数が必要であること理解できるようにする。相対度数を用いると大きさの異なる集団の階級ごとの比較がしやすくなることを学習することを通して、相対度数の必要性を実感できるようにする。
-------	---

(3) 無回答率

状況

小学校では国語の1問以外全ての問題で、無回答率が全国（公立）を下回った（無回答が少ない）。中学校では無回答率が全国（公立）を上回る問題数が多かった（無回答が多い）。

今後の指導で大切にしたいこと

- ・長文の問題が多くなっているため、問題を読み解く力が必要になる。国語科において読む力を身に付けるとともに、各教科においても長文の問題を解く機会を増やしていく。
- ・授業の中で解けない問題についてもいろいろな方法を試しながら粘り強く挑戦する場面を設ける。ただし、解答に時間がかかり過ぎていないか時間配分についても留意し、決められた時間内で解答していく経験も積んでいく。
- ・記述式問題において、無回答率が高くなっている。授業において問題解決に必要な情報を整理・共有する場面を設定したり、みんなで説明を練り上げていく活動を取り入れたりするなど、自分の考えを整理し、根拠を示しながら筋道を立てて説明することができるよう指導を工夫する。

(4) 質問紙調査 ※小豆島町の課題としている項目

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために臨時休業になったり、行事の中止等通常の学校生活が送れなくなったりしたことも影響したためか、改善傾向にあった小豆島町の課題項目について、全国（公立）平均より下回る項目が増えている。少しずつ通常の学校生活が戻りつつある中で、「今後の指導で大切にしたいこと」を踏まえて実践し、改善に向けて尽力していくことが必要である。

① 児童生徒質問紙調査（肯定的回答の割合）

ア 自尊意識について

状況

＜自尊意識にかかわる質問項目についての肯定的回答＞

- ・【質問6】自分には、よいところがあると思いますか。
全国（公立）平均を小学校では下回り、中学校では上回った。
- ・【質問7】将来の夢や目標を持っていますか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに上回った。

今後の指導で大切にしたいこと

- ・児童生徒が自己発揮できる場を多様に設定するとともに、教師は個人の伸びを見逃さずに認め、プラスの声かけをしていくよう心がけていく。
- ・互いのよさを認め、励まし合える仲間づくりを行っていく。

イ 規範意識等について

状況

＜規範意識にかかわる質問項目についての肯定的回答＞

- ・【質問 10】人が困っているときは、進んで助けていますか。
全国（公立）平均を小学校では下回り、中学校では上回った。
- ・【質問 11】いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに下回った。
- ・【質問 12】人の役に立つ人間になりたいと思いますか。
全国（公立）平均と小学校はほぼ同じであり、中学校は下回った。

今後の指導で大切にしたいこと

- ・生活科や総合的な学習等で、人とのかかわりを大切にし、積極的に体験的な学習を取り入れる。
- ・少数ではあるが、いじめを仕方がないとする意見について、その背景をみんなで考え、どのような理由があろうといじめは許されないものであることが理解できるようにする。
- ・自己決定の場を大切にし、児童会や生徒会、学級会などにおいて、自分たちで話し合い、決定していく経験を積む。

ウ コミュニケーション能力について

状況

＜コミュニケーション能力にかかわる質問項目についての肯定的な回答＞

- ・【質問 14】自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに下回った。
- ・【質問 15】自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに下回った。
- ・【質問 36】友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。
全国（公立）平均と小学校・中学校ともにほぼ同じであった。
- ・【質問 37】学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。
全国（公立）平均を小学校では下回り、中学校では上回った。
- ・【質問 62】5年生までに受けた英語の授業では、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができましたか。
全国（公立）平均を小学校では下回り、中学校では上回った。

今後の指導で大切にしたいこと

- ・児童生徒による主体的な学習を目指し、自分の考えを表現する場、ペア・グループによる交流の場を十分に確保し、自分の考えを広げたり深めたりする経験を積むことによって、交流のよさを感じられるようにする。
- ・様々な教科の中で言語活動を充実させ、対話を通じて合意形成・課題解決する力を身に付ける。
- ・安心して自分の考えを伝え合うことができる学級づくりを行う。
- ・小・中学校の連携を図りながら外国語教育を充実させていく。児童期からやり取りを大切にした学習を行い、英語で「話すこと」「聞くこと」への抵抗感を少なくするとともに、外国の文化や生活にも触れ、諸外国への興味・関心を高める。

エ 学習に関する関心・意欲について

状況

＜学習の関心・意欲にかかわる質問項目についての肯定的な回答＞

- ・【質問 43】国語の勉強は好きですか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに下回った。
- ・【質問 44】国語の勉強は大切だと思いますか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに下回った。
- ・【質問 45】国語の授業の内容はよく分かりますか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに下回った。
- ・【質問 46】国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに下回った。
- ・【質問 52】算数・数学の勉強は好きですか。
全国（公立）平均を小学校では下回り、中学校ではほぼ同じであった。
- ・【質問 53】算数・数学の勉強は大切だと思いますか。
全国（公立）平均を小学校では上回り、中学校では下回った。
- ・【質問 54】算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。
全国（公立）平均を小学校では下回り、中学校では上回った。
- ・【質問 55】算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに上回った。

今後の指導で大切にしたいこと

- ・教科への興味・関心を高めるために、自分で考え、取り組むことができる学習者主体の授業づくりを行っていく。
- ・考えを深めたり広げたりするために、児童生徒の発言や活動の時間を十分に確保する。話し合う活動においては、話し合いの目的を明確にし、適切なタイミングや相手を設定する。
- ・授業においては課題解決の時間を確保し、「できる」ことによって達成感や満足感を味わえるようにする。
- ・自分の学びに自覚的になるように、振り返りの場を設定し、児童生徒が自分の伸びに気づいたり、次時の見通しをもって学習に取り組んだりすることができるようにする。
- ・興味・関心の高いＩＣＴ機器を効果的に活用していく。
- ・「何のために学ぶのか」「現在の学びが将来どのように生きるのか」をしっかりと伝えていく。

オ 家庭における学習習慣等について

状況

＜家庭における学習習慣等にかかわる質問項目についての肯定的な回答＞

- ・【質問 17】家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。
全国（公立）平均を小学校では下回り、中学校ではほぼ同じであった。

- ・【質問 18】学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）。
2 時間以上の学習が、全国（公立）平均を小学校・中学校ともに下回った。
- ・【質問 19】土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）。
2 時間以上の学習が、全国（公立）平均を小学校・中学校ともに下回った。

今後の指導で大切にしたいこと

- ・授業で学習したことを活用する課題を出したり、予習で取り組んだことが生きる授業を設定したりするなど、家庭学習と学校での学習内容を関連付けていく。
- ・キャリア教育を充実させ、将来に向けて興味・関心をもった事柄や、自分の目標に向かって主体的に学習する習慣を付ける。
- ・日々の読書や運動の時間も少ない傾向にあるので、家庭での過ごし方について家庭で話し合う機会がもてるよう啓発する。
- ・スマートフォンやゲーム等の使用時間がとても長いので、各家庭でスマートフォンやゲーム等の使い方のルールを作り、見守っていくよう啓発する。

カ 情報教育について

状況

＜情報教育にかかわる質問項目についての肯定的な回答＞

- ・【質問 27】あなたは学校で、コンピュータなどの I C T 機器を、他の友達と意見を交換したり調べたりするために、どの程度使用していますか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに上回った。
- ・【質問 28】学習の中でコンピュータなどの I C T 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。
全国（公立）平均を小学校では上回り、中学校ではほぼ同じであった。

今後の指導で大切にしたいこと

- ・各学校で情報教育を積極的に進め、児童生徒の I C T 機器の活用技能は飛躍的に伸びている。今後、I C T 機器を用いて、「主体的・対話的で深い学び」につながる学習が展開できるよう工夫していく。
- ・情報モラルについても十分に学習を行い、ネットトラブルやゲーム依存に陥らないよう I C T 機器の適切な利用の仕方について学べる機会を設けていく。

② 学校質問紙調査

ア 校内研修について

状況

＜授業改善、授業力向上のための校内研修を行った割合＞

- ・【質問 22】校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っていますか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに上回った。
- ・【質問 23】授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っていますか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに上回った。

今後の指導で大切にしたいこと

- ・今後も、新学習指導要領で目指す「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」に向け、令和2年度末より導入されたタブレットの効果的な活用も含めて研修を充実させ、実践していく。
- ・課題となっている「学習意欲」の向上を踏まえて授業改善を行っていく。

イ 生徒指導等について

状況

＜生徒指導等にかかわる質問項目についての肯定的な回答（調査対象児童生徒に対して）＞

- ・【質問8】前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに上回った。
- ・【質問9】前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか。
全国（公立）平均を小学校では上回り、中学校では下回った。
- ・【質問10】前年度までに、学習規律（他の人が話している時はしっかりと聞く、授業開始のチャイムを守るなど）を維持しましたか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに上回った。
- ・【質問11】前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組を行いましたか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに上回った。

今後の指導で大切にしたいこと

- ・今後も、児童生徒とのふれあいを大切にし、表情や行動など様々な角度から思いや考えをくみ取り、一人一人を大切に生徒指導を行っていく。
- ・教育相談を定期的に行っていくとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用等、校内の教育相談体制を整えていく。
- ・仲間づくりを大切にし、安心して自分の気持ちを伝えることができる支持的風土を培っていく。
- ・集団で生活していく時のルールの大切さについて気づくことができるようにするとともに、児童会・生徒会、学級会などの場を通して、ルールについて児童生徒が主体的に考えていく場を設定する。

ウ 特別支援教育について

状況

＜特別支援教育にかかわる質問項目についての肯定的な回答（調査対象児童生徒に対して）＞

- ・【質問76】学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、児童生徒の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫など）を行いましたか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに上回った。

今後の指導で大切にしたいこと

- ・学校生活全体を通して、児童生徒の特性に応じた必要な合理的配慮が行われるよう教職員が情報共有するとともに、体制づくりを行っていく。
- ・個別の教育支援計画を有効に活用し、保護者の願い、本人の願いをもとに、将来を踏まえた教育活動が行えるようにする。

※ 令和3年度全国学力・学習状況調査問題については、国立教育政策研究所のホームページをご参照ください。